

法然上人より真影の図画と「選択集」の
書写を許された。『親鸞聖人伝絵』(重文)



自己の行実をほとんど語らなかつた親鸞聖人

ぎようじつ

高田 本山 だより

発行所

真宗高田派宗務院内

三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部

総務 藤山 眞哉

親鸞聖人は、自分自身に関する
こと(思いや行動など)をほと
んど語っておられない方であり
ます。

聖人の主著であります『顕淨
土真実教行証文類』(略して
『教行証文類』)に三箇所その記
述が見られます。それは、最後
の部分であります「化身土文
類」の後序と呼ばれていると
ころです。その部分を少し引用
しますと、

竊かにおもみれば、聖道の
諸教は行証久しく廃れ、浄土の
真宗は証道いま盛りなり。

…(中略)…
承元丁卯の歳、仲春上旬の候

に奏達す。主上臣下、法に背き
義に違ひ、忿りを成し怨みを結
ぶ。これに因りて、真宗興隆の大
祖源空法師ならびに門徒教輩、
罪科を考えず、みだりがわしく
死罪に坐す。あるいは僧儀を改
めて姓名を賜うて遠流に処す。
予はその二なり。しかればすでに
僧に非ず俗に非ず。このゆえに
禿の字をもつて姓とす。

…(中略)…

しかるに愚禿釋の鸞、建仁辛
酉の曆、雑行を棄てて本願に帰
す。元久乙丑の歳、恩恕を蒙り
て『選択』を書しき。同じき年の
初夏中旬第四日に、『選択本願
念仏集』の内題の字、ならびに
「南無阿弥陀仏、往生之業、念



仏為本」と「釈綽空」の字と、空
の真筆をもつて、これを書かしめ
たまいき。同じき日、空の真影
申し預かりて、図画し奉る。

…(後略)…

すなわち、一つは「承元の法
難」に関する記述。二つには「回
心(考え方の大転換)の告白」と
いわれている記述。三つには「法
然上人との値遇(出会い)」につ
いての記述であります。

「承元の法難」に関する記述
については、後鳥羽上皇から専
修念仏の停止という院宣が下
されたこと、念仏集会の関係者
に対する罪科を考えぬ一方的処
罰がなされたこと、そして「非僧
非俗」の宣言と「愚禿釋の鸞」の
名のりが、怒りをこめた強い調
子で語られています。

「回心の告白」といわれている
記述は、雑行を棄てて本願に

帰す(自分のはからいで行うい
ろいろの行をさしおいて、弥陀の
本願に帰命する身となる)一文
ではありますが、二十一年間に及
ぶ比叡山での修行を経て、悩み
に悩みぬいて獲得した真実の教
え―それは、それまでの教え
(自力聖道門)とは、まるつきり
異なつた教え(他力浄土門)―の
告白であります。

「法然上人との値遇」について
の記述は、上人の教えを聞法、
聞思したことはもちろんのこと
と、『選択集』を書写させても
らつたり、真筆をいただいたり、
真影を図画させてもらつたりし
たことに対する喜びが語られて
います。

これらの三つの事項は、聖人
が記述せずにはおられなかつた
ことで、たいへん重みのあること
であります。この機会に『教行
証文類』にさらに関心を持つて
いただき、深い味わいをいただ
ければありがたいことだと存じま
す。

そのようなことが、聖人のみ
ともにかえらうということの
趣旨にかなつたことだと思います。

もう一つの文化財修復事業

(重要文化財—専修寺聖教修復事業)

国庫補助による文化庁の文化財保護事業として、重要文化財の専修寺聖教(平成二十年年度指定)の修復が始まっています。

すでに、平成二十一年度と二十二年年度の事業として、専修寺第二世真仏上人・第三世顕智上人の書写本四冊が京都国立博物館にて修理中です。このほど、そのほかの重文聖教(五十二冊)について、同様に修理すべきとの決定があり、八月にそのスケジュールが確定しました。修理期間は平成二十三年度から平成三十五年までの十三年間で、

『三帖和讃』『西方指南抄』『尊号真像銘文』『唯信抄』など、親鸞聖人直筆の聖教は、戦後いち早く国宝や重文に指定され修理も完了していますが、真宗草創期の下野・高田門徒を率いた真仏・顕智両上人や第十世真慧上人の書写本については、初めての本格的修理となり

ます。修理といっても巨大な建築用材が使われている御影堂や

如来堂の修復作業とは違って、

冊子の綴じ目の糸や糊づけを除

去し、一度、綴じる前の状態にし

てから、シワになつてゐる部分は

湿り気を与えてプレスし、当初

の状態に戻します。また、破れ

たり欠損した部分や虫食いの部

分は、使われている紙質と同等

の和紙を用いて繕っていくという

地味な作業です。

修理予定の聖教のうち、ここ

に掲載する写真の聖教(平成二

十六年度修理予定)は、題名を

『般舟三昧行道往生讃』とい

ます。通常は略して『般舟讃』

と呼んでいます。題名にある「般

舟三昧」は「諸仏現前三昧」と

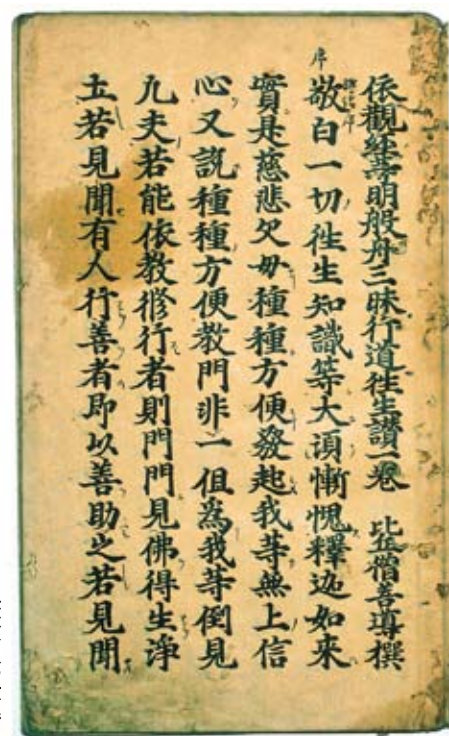
もい、修行中に諸仏を目前に

観ることが出来るということ

を意味します。とくに『般舟讃』

は、念仏道場において阿弥陀仏

を讃嘆するために制作された



(本文 第一頁)



(表紙の外題部分)

詩文で、題名の下部に「比丘僧

善導撰」と書かれているように、

中国唐代に活躍した善導大師

が著した本です。鎌倉時代の木

版刷りで、墨の色も濃く、文面

全体に読み下しのための訓点

が付されています。

また、専修寺の宝庫には同名

の木版本がもう一冊保存されて

います。藍染紙の表紙に書かれ

た外題が親鸞聖人の筆とされ

ている『善導大師五部九卷』の

うちの二冊(平成二十五年年度修理予定)ですが、この二種類の『般舟讃』の本文を比べると、語句の異なつたところが二十三カ所ほどもあり、どちらの本が先に出版されたのかを調べる必要があります。

ところで、『善導大師五部九卷』は、すでに奈良時代に遣唐使と共に派遣された留学僧によつて、書写本として日本にもたらされていましたが、あまり用いられることなく、鎌倉時代になつて、法然上人によつて再評価されるまで忘れ去られていました。特に、『般舟讃』だけは全く行方不明となつていて、法然上人も遂に見ることが出来なかつた本です。上人没後の建保五年(一二二七)に京都・仁和寺の宝庫から発見され、その後、木版刷りにて最初に出版されたのは貞永元年(一二三二)。その二年前の寛喜二年(一二三〇)から出版のための準備が始まっていたが、何しろ他に写本が見つかっていない状態では、「校合」という現今の「校正」に相当する作業が充分に進まず、いわば見切り発車の形で出版されたことが解つていて、古記録には、本文漢字に間違いの多い出版であつたと記されています。そのためか、この最初の出版本は発行部数が少なかったようで、現在に至るまでどこにも伝本が確認されておらず、幻の版本となつています。

親鸞聖人はいち早くこの本を『教行証文類』に引用されていることでも知られていますが、ここに紹介した二種類の版本『般舟讃』については、今後とも研究課題すべき点が多く含まれています。

リレー法話

遇い難くして

秦 妙映

「有難い」という言葉、もうみなさんはこの語源が仏教から生まれたものであることをご存じのことでしょう。有る事が難い、中々出遇う事が難しい「ご縁」を喜ぶ言葉であります。そこから「有難う」が感謝・お礼の意を表す日常用語となつています。

しかし最近、自分自身「有難う」が、言葉だけで終わっていることに気が付きます。増して、有難いご縁だとまでは感じていないものです。近頃は便利な事が多く、私達は何でもあつて当たり前の中で生活しておりま

す。それが故に、一層人との「つながり」を有難いとは感じない、そんな希薄な人間になりつつあるのではないのでしょうか。

まり自分を省みる事が少なかったことを知らされました。自己中心な人間ほど実は独り善がりで自分中心な生き方をしているという事に、気が付かないものかもしれません。

例えば自分を基準にして、あの人はいい、この人は駄目と、口には出さなくとも心の底に持っている自分がいるものです。そうすると自然に出てくるのがあの厄介な「愚痴」や「文句」でしょう。丸一日、陰口や愚痴を言わず思わずに心掛けてみると、これが残念ながら非常に難しいことが分かります。恐らく全く無くすことは無理でしょう、しかしそんな時、私にも悪い点がなかっただろうかと思ひ返り、或いは相手に何か事情があつたのだろうかと思ひやることの出来る人間を目指したいものです。

ケンカの原因は自分の意見と違う人、考えの異なるものを批判する事から起ります。私が変われば相手も変わるといふ場合も多くあるはず、嫌いだと思ひは相手に伝わるものです。憎いと思つて見ている自分の顔は、相手にとつても同じなの

かもしれませんね。

またこんな気付きもありました。

恥ずかしいことですが、今迄私は掃除を大変面倒で厄介なものとしておりました。簡単に言いますと、嫌いなのです。

お釈迦様は一番愚鈍であつたお弟子さんのチューラパンダカ（周利槃特）に『ちりを除け、あかを除け』といつて布を撫でておりなさい、とおっしゃいました。いくら掃除してもいつかたまる埃ですが、掃除をしないことにはただ溜まる一方、人の心の中にも「ちり」や「あか」があるのだから取り除くことが大事だ、という教えです。

お釈迦様の対機説法（たいきせっぽう）（相手の能力に合わせて法を説く）は二千五百年以上前であるにも関わらず、現代の私達にも通ずるところが沢山あるものですね。

以来勉学に優れない私は、心が乱れた時は先ず掃除。心の洗濯とお掃除は似ているようです。汚れが激しいと、きれいにするのに手間が掛かります。もつと早くやつておけばよかったと反省する機会、時間となつ

てくれます。笑顔や鼻歌で掃除かけや拭き掃除。つまらない顔ではつまらないことにしかならないですし、掃除機で突っ突くよりも、くすぐる方がきつと笑つて除けてくれることでしょう。

纏まりのない文章も最後になります。仏法を聴聞するとは正しい自分になつていくことではなく、正しくなれない自分を分かって頂くことでしよう。私は沢山話を聞いてきたから分かる、ということでもありません。

ただ、聴聞させて頂くと思ふ気持ちが起こること、これは、少なくとも如来のおはたらきに出遇つてゐる証でありましょう。

遇い難い仏縁に出遇えたことに感謝し、常に自分を省み、昨日より多く感謝し、昨日より少し思いやりを持つ。仏法にはそんな素晴らしい力がある。これからも私自身「有難い」をあじわつて行きたいことであります。

合掌
（北海道赤平市 浄光寺 衆徒）

京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店／京都市下京区烏丸通正面 上 ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式
會社ISHIMEN
STONES

ストーンズ 石仙

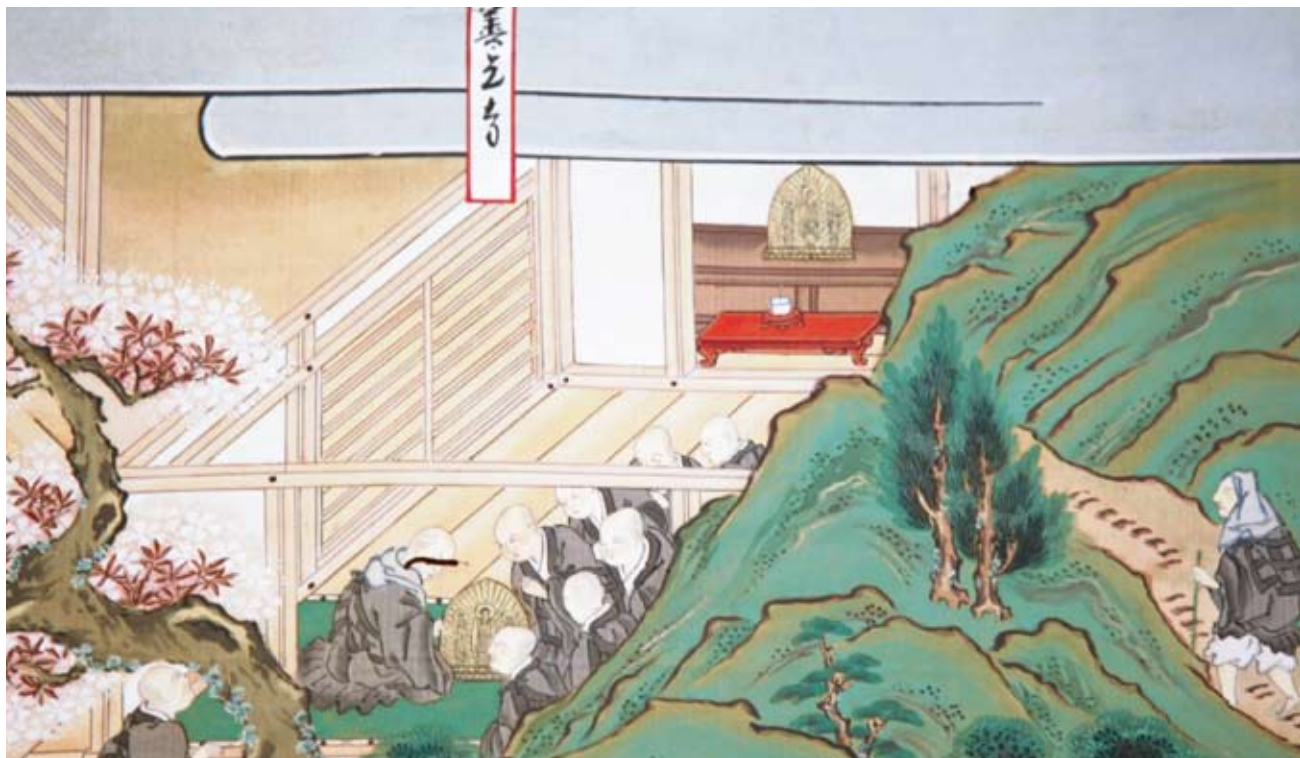
(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

サイコーヨイイン

善光寺より一光三尊仏の分身を与えられた
「正統伝絵伝」より善光寺の段



親鸞聖人のご生涯シリーズ⑭

高田建立（一光三尊仏）

嘉禄元年（一二二五年）親鸞聖人五十三歳の時、聖人が宮村の草庵にお泊りになられた四月十四日の深夜に次のような夢のお告げを頂かれました。

一人の聖僧（一光三尊仏の化身）が現れて、「あなたが衆生を救おうとしている願いは既に成就しています。ただちに信濃国の善光寺に行きなさい。あなたに私の分身を与えましょう。早く伽藍を建てて尊像を安置し、人情が薄く風俗の乱れた世のための道標として備え、末代の衆生を引導してほしいのです」と・・・

聖僧が西に向かつて去り、高田の地に達した途端にその姿が消えて、聖人は夢から覚められたのです。

聖人は大変お喜びになり、信濃国に旅立つ準備をされている丁度そのとき、横曽根の性信房と鹿嶋の順信房が来られ、聖人のお供として同行されることになりました。一行は四月十九日早朝、善光寺に到着されたのです。

善光寺では朝の勤行に集まった僧侶たちが、昨夜、それぞれに同じような夢のお告

げを受けていたことを語り合っていました。夢の中で一光三尊仏が梵音（清浄な音声）を発して言われるには、「明日、私の弟子である善信法師（親鸞聖人）が来られるから、私の体を分けて与えましょう。あなたたちはこの金像を善信法師に渡しなさい」と・・・夢のお告げを受けた僧侶の数は十五名にものぼりました。また、檀上を見上げてみると、一光三尊仏の金像が実際に安置されていました。お告げを語り合っている最中に聖人が御堂に入って来られたので、僧侶たちは驚くと共に昨夜耳にした三尊仏のお言葉に大いに感じ入って、金像を聖人にお渡ししたのでした。

聖人は歓喜の涙に咽びながら、金像を袈裟に包み、笈（背に負う箱）に入れ、自分で背負われて帰路につかれました。順信房と性信房はかわるがわる聖人を助けながら歩きました。道々の道俗（僧侶と一般人）がこのことを聞き及んで、ご縁を結ぶために、ここかしこにいっぱい集まりました。前に進むことも

後戻りすることもままならぬほどでしたが、四月二十六日晡時（午後四時頃）、一行が高田にお帰りになり、この三尊仏をご本尊として奉安されました。



▶一光三尊仏前立像（如来堂安置）
栃木県指定重要文化財

高田の一光三尊仏は、中央の阿弥陀様の左（向かつて右）に慈悲の観音菩薩、右（向かつて左）に智慧の勢至菩薩が一つの光背に納められている形式です。もしも三尊が独立して安置されていたら、私たちの都合に合わせて慈悲や知恵を求めることのみで流されていったのではないでしようか。二菩薩がそれぞれ阿弥陀様の慈悲と智慧のほたらきをあらわすものとして協働しているところに重要な意味があるのです。

一光三尊仏は今も本寺専修寺に安置されていますが秘仏となっており、江戸時代中期からは十七年に一度ご開扉されます。次回は平成二十六年（二〇一四年）です。ぜひお参りいただいてご縁をお結び下さい。

（教学院第三部会）



松山 智光

この譬喩物語は短編です。

中国の善導大師が話されたものです。題名の「二河白道」からして説明しないと、内容のわからないような話です。

善導大師は、唐代の代表的な僧で、親鸞聖人が七高僧のお一人としてあがめられた方です。私たちがおつとめの時に「善導独明仏正意」（善導ひとり、阿弥陀仏の正しい教えをお説きになりました）と教えてくださる大事な僧であります。

特に善導大師は、『観無量寿経』に関する著書を多く残されました。この「二河白道」の譬喩は、その著書の中の『散善義』に語られています。当時の中国仏教界は、この『観経』は、自力修行によって、悟りをひらく道が説かれていた代表的な経典として扱われていました。それを善導大師は『観経』を正しく理解すると、その教えの真意

は、阿弥陀仏の他力救済の道が裏面において説かれているという画期的な領解を展開されました。その中にこの二河白道の譬喩がのべられているのであります。

ここで私は、譬喩の書きだしの所だけを掲げて、解説をすすめることにします。

「一切往生人等にもうさく。いまさらに行者のために一つの譬喩を説きて、信心を守護して、もつて外邪異見の難を防がん。なにものかこれや。」

この譬喩は、一切の往生人等に申します。特にここでの往生人とは、『観経』を手にして、自力修行に精進している人々を対象にしているようです。その行者の人々に對して、譬喩を出して『観経』の正意を示して、これに對する外邪異見の非難を防ぐとするものです。このように理解すると、善導大師の決意が、この譬喩の中に込められていることがわかります。私はそれを聖人の和讃からも伺うことができます。善導和讃の第八首に

善導大師証を請い

定散二心をひるがえし

貪瞋二河の譬喩をとき

弘願の信心守護せしむ

この和讃の意味を、ご法主

著の『註解 国宝三帖和讃』には「善導大師は十方の諸仏に証明を求めて『観経疏』を著し、人々が定散自力の心をなげうって他力の信に達するよう、貪愛の水の河と、瞋憎の火の河のたとえを『散善義』に説き、弥陀の願力より賜る信心をお守りになる」とお示しになっています。

以上で、善導大師の二河白道の譬喩に賭けるお気持ちがあれば、どのものであったかわかります。十方の諸仏に証を請われての説法であります。

次にいよいよ「二河白道」の譬喩物語が始まるのですが、前段は『観経』を自力修行の根本経典として修行に励

んでいる行者に語りかけているようであります。

「たとえば人ありて、西に向かいて行かんとするに百千の里ならん。この人すでに空曠のはるかなる処に至るに、さらに人物なし。多く群賊、悪獸ありて、この人の単独なるをみて、競い来たりてこの人を殺さんとす。死を怖れてただちに走りて西に向かうに、忽念として中路を見れば二つの河あり。一つにはこれ火の河、南にあり。二つにはこれ水の河、北にあり。二河のおおの闊さ百歩、おのおの深くして底なし、南北辺りなし。まさしく水火の中間に一つの白道あり。闊さ四五寸ばかりなるべし。この道、東の岸より西の岸に至るに、また長さ百歩、その水の波浪交わり過ぎて道を湿す。その火焰また来たり道を焼く。水火あい交わりて、つねにして休息することなけん。

この大河をみて、すなわちみづから念言すらく、この河、南北に辺畔をみず、中間に一つの白道をみる。きわめ

てこれ狭少なり。二つの岸あい去ること近しいへども、何によりてか行くべき。今日さだめて死せんこと疑わず。」乃至（鈴鹿市道伯 隨願寺前住職）

このお話は、平成二十二年八月五日に本山で行われた佛教文化講座での講演の一部を抜粋して要約したものです。

（文責 編集部）

世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭

安川如風



御本山絵所

第一回 本山納骨の大事なお話

本山納骨のご案内 お届け参りのすすめ

本山では弘長二年（1262）に茶毘にふされた親鸞聖人のご遺骨の一部を京都より関東の専修寺（本寺）に納めてお守りして以来、こころ一身田の専修寺、高田本山にも寛文十二年（1672）に御廟が造営され、本寺にてお守りしていたご遺骨の一部を納めさせていただき脈々と受け継がれています。

納骨は、「聖人のお説きしめしくございましたお念仏の教えにより、浄土往生させていただきました」と、ご報告にあがり、亡くなられた方の法名と共に、ご遺骨の一部を親鸞聖人のおそばにお納めさせていただきます。



本山納骨は、お骨を預かるところではなく、お届けいただきお納めいただくところなのです。

念仏の教えを共にいただいたものとして、少しでも親鸞聖人のおそばにという気持ちで大事にさせていただきます。

こうして、高田派では聖人の御真骨が納められている御廟が本山境内にありますので、納骨堂にてお届け参りの受付をさせていただきます。高田派の同行さん、お檀家さんならでのお参りといえるのではないのでしょうか。

地域によってはこの本山へのお参りの習慣が根付いていないところもございますが、これを御縁に本山納骨の趣旨を御理解いただき、すべての高田派の同行の方々がお届け参りに来山いただければと思います。

また、お届けいただいた大切な方を縁として、それぞれの方が、ますます仏縁を深めます。

ていただければありがたいことです。

納骨堂は毎日九時から十六時までみなさまのお参りをお待ちしております。ただし、各種受付業務は十五時までとなっておりまして、時間には余裕をもってお越し下さい。



ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町869-77

TEL 232-7453
FAX 232-7453

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせご注文は

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



人気商品 高田本山流 精進料理

※ご自宅までマイクログ/スで配達(5名より14名様まで)

高田本山御用途
三重県仏教会御推薦石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店

御影石材(株)

(石に御用の方は)

☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

本山諸行事

どうぞご参詣下さい。

朝のおつとめ

毎朝、午前七時より。

始めに如来堂、次に御影堂にて
勤行。

引き続き、御影堂にてお説教
がございます。どうぞご聴聞下
さい。

毎月、十五日には御参廟（親鸞
聖人のお墓へのお参り）がござ
います。

現在、御廟が工事中ですので、
御影堂でのお説教の後、如来堂
からの遙拝になります。

九月の行事

◆讃佛会

九月二十日～二十六日

秋のお彼岸の法会です。
御影堂にて。

午前十二時三十分より勤行。
勤行に引き続き、お説教がご
ざいます。

二十三日には、御親教と復演が
ございます。

十月の行事

◆資堂講法会

十月一日～三日

本山での永代経です。

午前十二時三十分より勤行。

引き続き、お説教がございま
す。

◆第十五回教学院研究発表大会

十月二十九日

宗務院二階会議室にて。

午前十時より。

一般聴講歓迎。

聴講無料。

十一月の行事

◆納骨堂法会

十一月三日、四日

親鸞聖人の御廟へのお届け参
りをされた方に、真宗のみ教え
のご縁をいただく法会です。

午前十時三十分より、納骨堂
にて勤行。

午前十二時三十分より、御影堂
にて勤行。

引き続き、お説教がございま
す。

◆秋法会

十一月五日～十日

本山の千部講にご加入された
方の法会です。

御影堂にて。

午前十二時三十分より勤行。

引き続き、お説教がございま
す。

十二月の行事

◆中興上人御正當

十二月八日～十日

高田派中興の祖である第十世、
真慧上人を偲ぶ法会です。

御影堂にて。

午前十二時三十分より勤行。

引き続き、お説教がございま
す。

編集後記

本山東側にある太鼓門の修復工
事が八月で完了し、誇らしげな三
層の櫓の姿が戻りました。

もともとは、長屋門の上に櫓は
一層であつたらしく、三層に改築
されたのは文久元年（一八六一）
の親鸞聖人六百年御遠忌に合わせ
て行われたようです。

「ひとくち法話」の表紙に修復
成った太鼓門の写真を撮ろうと思
い、カメラを持って境内に出まし
た。電柱やら周囲の建物が映って
しまひ思つたように撮れません。
そこで、余計なものが入らないよ
うに苦心して撮影したのが左の写
真です。

一見しますと、お城の櫓と見間
違えてしまうほど凛々しい姿では
ありませんか。漆喰の壁も美し
く、周囲の建物が映っていないの
で、より太鼓門の三層の櫓が天に
そびえ立つような雄姿を見せてい
ます。

三層に改築された時代は、まさ
しく明治維新前後です。世の中が
不穏な情勢だけに、有事を想定し
ての物見櫓としての用途も兼ねて
いたのではないかと勝手な想像を
しますが、いかがなものでしょう
か。

(F)



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電 話 （075）371-0854・8181～2番
F A X （075）344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
（〒600-8503）

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

武田龍精編
往生論註出典の研究

論大綱／総説偈文／觀察門
／廻向門／解義総説／起観
生信／觀察体相／浄入願心
／善巧／撰化／離苦提障／順
菩提門／名義撰対／願事成就
／利行満足／總結の論集
参考文献略記一覽外
定価9000円税込

林 智康著

親鸞聖人と建学の精神

知恩報徳と常行大悲／前に
生れんものは後を導き、後に
生れんひとは前を訪へ／世
のなか安穩なれ、仏法ひろま
れ外
定価13000円税込

北畠晃融著

仏道を学ぶ

定価16800円税込

普賢保之著

本當の幸せとは

—自己を見つめて—

定価10000円税込

無名会同人編

仏と人47

定価4100円税込

松岡秀隆著

蓮如上人の門弟の人々

定価25000円税込

山崎龍明著

歎異抄とともに

定価10500円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
FAX 075-3337111・9665511
0155-3337111・9665511
010-2305111・9665511
010-2305111・9665511

●平成22年10月27日(水)9時より受付

●会場 本山及び青少年会館

檀信徒研修会

テーマ
「親鸞聖人のご生涯」

寺院名

本寺専修寺 開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会 平成23年4月2日(土)～4日(月)



本寺専修寺 御影堂(重文)

栃木県真岡市高田1482番地 電話 0285-75-0103

主な行事

稚児行列(4月3日)

民話の会・・・地元に伝わる親鸞聖人のお話

尊徳太鼓・・・二宮尊徳を顕彰する太鼓 など

本寺専修寺は親鸞聖人の建立と伝えられる
「正統伝絵伝」より高田御堂御造所の段

